

(個別研修)田中邦子

### 研修テーマ：障害者と仕事について

1. 障害者支援施設における職業リハビリテーションを学ぶ
2. 企業における障害者雇用の工夫を学ぶ
3. 1.2.におけるアメリカとデンマークそれぞれの取組みを比較する

研修地：デンマーク コペンハーゲン

研修日：5月22日～5月25日

#### ①Lavuk

障害者支援のための多機能施設。

18歳以上の人の生活介護とB型と地活を合わせたような施設。

在職者も在籍していて、夜のプログラムもバラエティに富んでいる。



コペンハーゲン市内にある事業所



職員の手作りによる昼食

日中活動としては買い物、料理、手芸、絵画、PC、楽器の演奏や合唱などの他に、カヤックやセーリング、スキーなどの屋外活動もある。旅行にもよく行くそうで、イタリア、ドイツ、ギリシャなどの海外旅行にも定期的に行っている。（利用者50人ぐらいと支援員30人ぐらいの一行で。車椅子の人も多く参加している）利用者の障害種別は様々で、重度の人もいる。支援員も含め、みなさん仲が良さそうに見え、大勢で一つの家族を作っているような温かい雰囲気があった。

在職者交流会（週1回、フローボール）を見学。サークルのような雰囲気、職員も利用者も一緒に気持ちよさそうに運動を楽しんでいた。他にも職員と利用者混合のバンドがあるなど、音楽活動も盛ん。



仕事を終わってから集まり、準備体に励む職員と利用者

## ②TARNBY KOMMUNE Job Center

コペンハーゲン市立 仕事情報センター。

ハローワークと障害者職業センターと障害者就業・生活支援センターが一体化したような施設。

職業紹介部門、職業訓練・給付担当部門、就職支援部門、などに分かれている。



ジョブセンターのロビー



快適なオフィス

施設全体を見学の後、障害者就業・生活支援担当者と面談。デンマーク地方自治体における雇用関連制度についての説明を聞く。

デンマーク独自の制度もあるが、日本の制度と大筋では似通っている。

障害者、雇用主、支援機関それぞれの動きもまた酷似している。

デンマークでは基本的に高校を卒業したら家を出る（家族とは別の場所に住む）ことが一般的。

そのため障害があっても進路が決まっていなくても、18歳になったらまず住まいを決める。大学などの寮やアパートのルームシェアなどが一般的で障害者にはグループホームを利用する人も多い。

### ③Habitus

障害者のためのグループホーム。デンマーク最大手。

身辺自立ができていますが、多くのサポートが必要な人のための住居。

事業所が買い上げた家に利用者2～3名ずつで住んでいる。

利用者の費用負担は無い。

個別の日中活動が細かくスケジュールされており、利用者本人に分かりやすいよう、写真や絵カード(PECS)が効率的に活用されていた。

スタッフの勤務体制は8:00-22:00で週3日勤務。

勤務時間以外でも私用のケータイに連絡が頻繁にくるそうで、決して楽ではない。

インタビューさせてもらった利用者は20代前半の女性。

自閉症でこだわりが強く、人見知りも激しいらしいが。

日本人と会うのは初めて、と喜んでくれて、写真撮影にも応じてくれた。

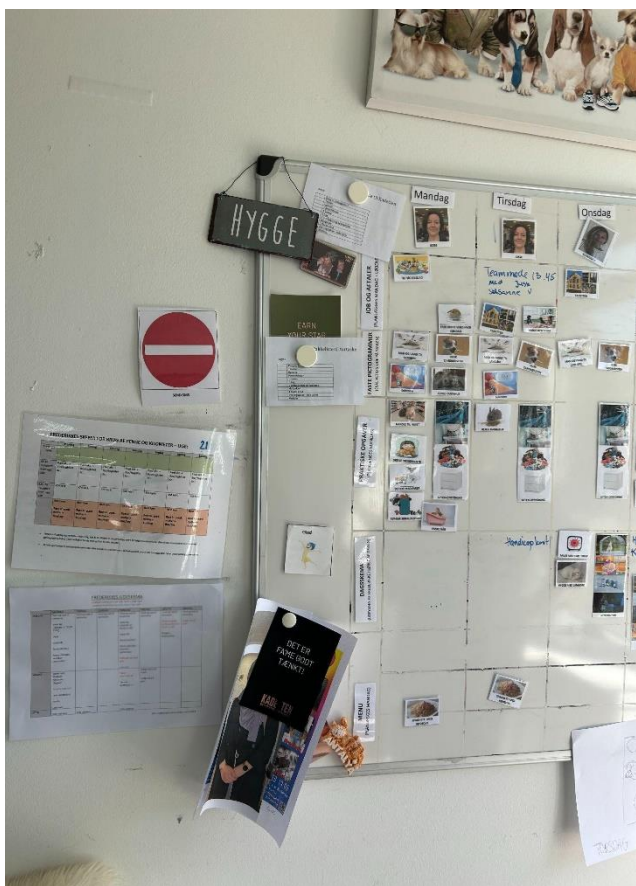
ウサギが大好きで庭にウサギ小屋があるほか、自室にもウサギスペースを作っている。



海沿いの閑静な住宅街にあるグループホーム



陽当りの良い、ゆったりとした個室



行動予定や曜日ごとの担当者、  
気持ちを表すカードなど



ウサギを愛する利用者さん